

平成26年1月16日

豊川市長 山 脇 実 殿

豊川市特別職報酬等審議会

会長 日比嘉男



特別職の報酬等について（答申）

平成25年11月29日付け諮問第1号で諮問のありました議会の議員の議員報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額について、慎重に審議した結果、次の結論に達したので、ここに答申します。

答 申

1 議会の議員の議員報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額について

(1) 報酬等の額

議会の議員の議員報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額については、次のとおりとすることが適当である。

議 長 月 額 562,000円（据え置き）

副議長 月 額 512,000円（据え置き）

議 員 月 額 479,000円（据え置き）

市 長 月 額 1,069,000円（据え置き）

副市長 月 額 874,000円（据え置き）

注：かっこ内は現行との比較

2 審議会開催状況

第1回審議会 平成25年11月29日

第2回審議会 平成25年12月17日

3 審議経過及び内容

本審議会は、国や県、県内他市の特別職の報酬等の状況、本市の議員の定数と活動状況、本市の現在の財政状況と今後の社会情勢の見通し、本年の人事院勧告等についての資料を分析し、様々な角度から意見を述べ協議をしてきた結果、上記の結論に達した。

本審議会における主な審議内容は、次のとおりである。

- (1) 現在の社会情勢については、国の施策により、景気の一部に明るい兆しも見え始めているが、消費税増税の駆け込み需要の反動が予測されるなどその動向を見守る必要がある。
- (2) 公務員が給与を改定する人事院勧告は、ここ2年据え置きとなっている。特別職の報酬等を改定の際は、これまで人事院勧告を参考として改定を行っている。
- (3) 本市の財政状況については、財政力指数等の各種数値で見る限り、楽観視はできないが、法律で規定する健全性は保たれており、報酬を下げるほどの危機的状況ではない。
- (4) 特別職の報酬等の額は、県内各市との比較では、決して低い水準ではないが、豊川市の市域、人口の拡大とともに、特別職の職責、仕事量は大きなものとなっている。したがって、財政が許す限りは、その職務と責任に見合う報酬等が求められるところである。
- (5) 市議会議員の活動については、本会議のみならず会期以外の地域での活動において、非常勤という立場であるが、専業に近い活動を行っていると理解するところである。その活動に見合う報酬により、優秀な人材が市議会議員となり、市政を担うことが、市の発展につながるものである。
- (6) 議員自らの発信する活動内容や議会の傍聴などを通じ、私たち市民がその活動内容を常日頃から見ていくことが、議員報酬等の公正な評価につながるものである。
- (7) 議員定数、議員報酬については、議員自らが、常に適正化に取り組むべきであり、議会内の今後の議論に期待するものである。

以上の要素を総合的に勘案し、議会の議員の議員報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額については、据え置くこととする。

4 おわりに

11月9、10日の「B-1グランプリ in 豊川」においては、多くの市民ボランティアが、官民の事業者と一体となって58万1千人の来場者を出迎え、全国規模のイベントを大成功のうちに終えることができた。宝飯郡4町と豊川市が一つとなり、新しい豊川市が誕生して4年。一体となった豊川市の「おもてなし」の姿を全国に発信し、市民と行政との新たな信頼関係と連携が構築されたと感じるところである。

この信頼関係と連携を、議員及び市長、副市長は、豊川市の諸課題に生かすべく、市政運営の両輪を担っていただきたい。

市長、副市長にあっては、地方自治の役割が増し、厳しい財政状況が続く中、さまざまな市制施行70周年記念事業や新市民病院の開院など着実な事業の進捗に敬意を表する一方で、施設の統廃合や防災・環境・地域社会などの新たな行政課題への対応とバランスの取れた自治体経営に期待するものである。

議員にあっては、会期中の本会議はもちろん、常日頃から、地域活動、地域の課題や意見の集約に努められていることに敬意を表する一方で、議員活動に専念し、その活動を地域以外の市民に伝え、開かれた議会として、幅広く市民の声に応えていただくことを切望するものである。

最後に、議員及び市長、副市長に対し、今後の豊川市の発展と市民福祉向上のためになお一層のご尽力を期待する。

豊川市特別職報酬等審議会

会長	日比嘉	男
会長職務代理	伊藤憲	男
委員	井上豊	重
委員	鈴木政	代
委員	柘植智	也
委員	柴田勝	
委員	半田浩	勝
委員	古澤美佐	子
委員	鳥山智	恵子
委員	梅村賀代	子